

JNC 株式会社

代表取締役社長 森田 美智男 様

### 熊本県のゴイシツバメシジミ保全に関わる要望書

1973年に熊本県水上村市房山で日本から最も新しく発見された蝶の一種ゴイシツバメシジミは、他に同県山都町周辺、熊本・宮崎県境の白髪岳周辺、奈良県川上村のみ生息が確認されています。ところが、熊本県の2カ所以外の産地ではすでに絶滅しました。現在の生息地でも個体数は著しく少なく、絶滅の危機が極めて高い希少な蝶です。そのため、本種は国の天然記念物（文化財保護法指定）、国内希少野生動植物種（環境省・種の保存法指定）、環境省レッドリスト絶滅危惧IA類にも指定されています。また、環境省、文部科学省、農林水産省の三省による「ゴイシツバメシジミ保護増殖事業」（平成9年4月3日策定）が、本種の保全、増殖に予算措置を伴って長年にわたり実施されています。

ゴイシツバメシジミの幼虫は照葉樹林帯の大木の幹や太枝に着生するシシンラン（イワタバコ科）の花蕾のみを摂食し、この植物も環境省レッドリストで絶滅危惧II類に掲載されている希少な植物です。本種は6月中旬から8月下旬にかけて成虫が羽化、交尾・産卵して、卵からふ化した幼虫は食餌の花期に合わせてわずか2週間ほど摂食した後、翌年6月までの約10か月間を環境変化に弱い幼虫で樹上にて長期休眠する変わった生活史を持ちます。一方、食餌植物のシシンランは空中湿度の高い原生林の谷間に生育し、一般に谷底から50m未満に位置する大木にのみ着生するため、大気成分や気温・湿度などの環境条件に極めて敏感です。

このようにゴイシツバメシジミおよび幼虫の食餌植物シシンランは、特殊な環境条件を好み、かつ特異な生態を持つため、森林内の大気汚染や乾燥化には極めて脆弱であることが判明しています。加えて、本種は我が国唯一の着生植物依存の蝶類であり、シシンランに依存する故に西日本の潜在植生である照葉樹林帯の良好な残存状態を示す貴重な指標動物でもあります。

この度、日本昆虫学会および日本鱗翅学会は、ゴイシツバメシジミの発見当初から保護活動に努められ、三省の保護増殖事業計画でも専門家として活躍されている九州大学名誉教授三枝豊平博士（日本昆虫学会元会長）から、熊本県山都町内にある貴社の発電所に関わる価格固定買取制度（以下、「FIT制度」と略）設備認定のための工事が、同地に生息する貴重なゴイシツバメシジミの生息保全に多大な影響が生じる恐れがあるという詳細な報告を受けました。

特に、工事予定期間の二年間は、導水路トンネル工事用の大型発電機の設置により周辺環境が著しく悪化することに加え、この大型発電機の昼夜にわたる連続稼働で生じる排気ガスは、狭隘な溪谷の生息地に停留する危険性が極めて高く、排気ガスによる大気汚染や熱などの大気環境の変化に脆弱なゴイシツバメシジミやシシンランに甚大な悪影響を及ぼすことが懸念されます。

このような状況を鑑み、貴社の発電所のFIT設備認定のための工事計画の中で、希少種、生態系に重大な影響を及ぼすおそれのあるような計画をしないよう、強く要望致します。しかし、資源エネルギー庁との折衝において、上記大型発電機の設置がどうしても避けられない状況になりましたら、発電機の設置場所や稼働方法などについて、ゴイシツバメシジミやシシンランへの影響を最小限にするため、本種の保全関係者と緊密に協議して頂きますよう、この点も強く要望致します。なお、当二学会も専門家

集団としていつでもご協力させて頂く用意がございます。

貴社はこれまでも発電所周辺のゴイシツバメシジミおよびシシンランの保全に対して多大な配慮をして頂いていることは、三枝博士から聞き及んでおります。今回の要望に対しましても格別なご配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。

2015年1月25日

日本昆虫学会  
会長 前藤 薫  
(神戸大学大学院農学研究科 教授)  
学会本部  
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1  
国立科学博物館動物研究部

日本鱗翅学会  
会長 石井 実  
(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授)  
学会本部  
〒192-0063 東京都八王子市元横山町 2-5-20

[担当]

日本昆虫学会・日本鱗翅学会  
自然保護委員長 矢後 勝也  
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1  
東京大学 総合研究博物館  
Tel. 03-5841-8455; Fax. 03-5841-8451  
E-mail: myago@um.u-tokyo.ac.jp  
(本件に関わる連絡の必要がありましたら、上記担当自然保護委員長宛にお願い致します)